

令和 6 年度第 3 回太宰府市総合戦略推進委員会会議録
(まちづくりビジョン会議)

1 開会及び閉会に関する事項

- | | | | |
|---|---|---|----------------------|
| 1 | 日 | 時 | 令和 6 年 11 月 25 日 (月) |
| | | | 午後 1 時 30 分開会 |
| | | | 午後 3 時 00 分閉会 |
| 2 | 場 | 所 | 太宰府市役所 3 階 庁議室 |

2 委員出席者

委 員 長	八 尋 茂 雄
副 委 員 長	八 尋 和 郎
委 員	大 西 良
委 員	松 澤 尚 史
委 員	柳 瀬 隆 志
委 員	福 留 大 士
委 員	池 田 昌 太
委 員	小 川 祥 平
委 員	亀 崎 弘 記
委 員	青 山 博 秋
委 員	結 城 茉 優
委 員	菊 地 裕 子

3 執行部

楠田市長・原口副市長・轟総務部長・宮原経営企画課長・宮崎総務部理事・杉山総務部理事・佐藤市民生活部長・川谷健康福祉部長・大谷健康福祉部理事・柴田都市整備部長・高原都市整備部理事・友添観光経済部長・中山教育部長・八尋教育部理事・野寄議会事務局長

4 議題

- (1) 次期総合戦略の素案について

5 概要

議題（１）次期総合戦略の素案について

<事務局説明>

- ◆ 第２期総合戦略は、本市が将来にわたって活力ある社会を実現していくために令和２年に策定した。本年度は最終年度を迎えることから、改定に向け次期総合戦略の素案を作成した。
- ◆ 次期総合戦略では、令和７年度から令和11年度までを計画期間としている。本市の目指すべき姿（地域ビジョン）を「課題解決先進都市だざいふ」と位置づけ、短期・中期・長期のうち中期として、取組を進めていくこととしている。また、現在最重点事項として取組を進めている市政積年のもしくは社会先進的な５つの課題を盛り込んだ形を想定している。
- ◆ 第２期総合戦略では４つの基本目標と31の施策、84の事業が構成している。現時点の素案においては、４つの基本目標と31の施策、118の事業(再掲含む)で構成している。
- ◆ 基本目標１「だざいふの底力総発揮構想（成長戦略）」では主に地域経済や市街地の活性化を目指した構成としている。
- ◆ 基本目標２「だざいふ型全世代居場所と出番構想（移住定住戦略）」では、地域コミュニティの活性化や居場所づくりの推進などを進め、本市の住みやすさの向上、移住、定住を促進する内容としている。
- ◆ 基本目標３「令和の都大だざいふ構想（圏域拡大戦略）」では、国際交流、国や県などとの連携を基にした交流人口、関係人口の拡大を目指したものを想定している。
- ◆ 基本目標４「持続可能なだざいふ構想（行財政改革戦略）」では、本市が真に持続可能なまちとなるべく行財政改革を進めていく内容としている。
- ◆ 委員の皆様のご意見などを踏まえ、次期総合戦略に反映させていきたい。

<市長説明>

- ◆ 短期・中期・長期のイメージとして、短期は第２期戦略、混乱からの脱却期という位置づけをしている。これまでは太宰府のよさを生かしたり、足りてなかったところに集中してきたが、今後は中期的に様々な課題解決、そして国や県との連携強化などもさらに進めていかなければいけない。その先の長期は、国と対等、そして地方の中でもトップリーダーとなれるような、新たに太宰府がモデルを創出できるような「課題解決先進都市だざいふ」という目標を掲げている。
- ◆ ５つの課題は、本年度の施政方針であげたものだが、４つの戦略と５つの課題を連動させながら中期・長期の太宰府の発展、日本の発展、世界への発展につなげていくということを目指してはいきたいと考えている。

<事務局説明>

- ◆ 素案の内容について事前にご質問いただいていた６件に回答を行う。
- ◆ まず、「学校と連携した観光振興事業の内容について」だが、現在インバウンドの事業について、大学と連携して学生や留学生を活用できないか検討している。
- ◆ 次に、「放課後子ども教室の拡充、担い手確保の考え方、キャンパスネットワークの連携における高大連携参加者数の考え方について」だが、放課後子ども教室は自治会やPTAなど地域のボランティアを担い手として想定をしており、各校の地域コーディネー

ターが地域のボランティアの参画を促している。高大連携の参加者数については、体験しながら太宰府を知る「だざいふ遊学プロジェクト」事業を令和5年度から実施しており、学校、学生の参加も増えている。この他連携を進め、参加者数増を考えていきたい。

◆次に、「市内におけるひとり親家庭の世帯数と目標値の妥当性」だが、市内のひとり親世帯は令和3年度県の調査では840人とされている。目標値については、令和5年度に6人、令和6年度では現時点で10人給付を行っており、さらに支援に力を入れていくため、18人の目標値を設定している。

◆次に、「小・中学校の不登校人数、市内のひきこもりの人数」だが、不登校児等生徒数は公表をしていない。国において令和5年度の不登校生徒数を公表しており、福岡県では1,000人あたり43.4人とされている。ひきこもりの人数については、市としては把握できていない。本年度Webにてアンケートなど実施したところ、37件の反応があったため、相当数がいるのではないかと想定している。様々な場面で相談、支援につなげていきたい。

◆次に、「男性育休取得率はなぜ100%を目指さないのか」だが、本市の育休取得率は低かったが、ここ数年で倍増し令和5年度では76.9%となっている。国においては、令和12年度までの目標を85%と設定しているため、少し上回る形で目標値を90%に設定している。

◆最後に、「温室効果ガス排出量17万4,000トンの根拠と削減のための具体的施策について」だが、数値の根拠は太宰府市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の目標値から算出している。具体的施策については、再生計画エネルギーの導入や省エネルギーの促進などの施策を先ほどの実行計画で掲げている。

<委員意見・提案>

◆学校と連携した観光振興事業について、現在、留学生というのは何名いるのか。

<事務局説明>

⇒市内の大学の合計で、留学生が1,440名となる。

◆ひとり親世帯が840世帯いるなかで、支援事業を活用されている方は本年度上期で10人。認識としてはひとり親家庭でも経済的にそんなに困っていないという捉え方で間違いないのか。

<事務局説明>

⇒所得に応じて支援が組まれてる。支援を活用した10名は全て市の相談窓口から事業の紹介に至った低所得の方である。

◆男性育休取得率について、長期的に地方自治体のモデルとなり得る「だざいふモデル」を作るにあたり、国や民間と同じ横並びではどうなのかと考える。また、民間に先んじた姿勢、実績を積み上げていくことはよい方向性と思う。

◆全ての施策を踏まえて「だざいふモデル」のイメージやデジタルの力を活用する部分について、市長の考えを伺いたい。

<市長説明>

⇒「だざいふモデル」について、中学校完全給食では民間委託を行い市内に調理場ができるなど、市の負担を減らしつつ税収、経済効果を考えてやってきたため、続くモデルを実現できればと考えている。また、率先して観光客の受け入れの役割を果たしているため、プラス面がもっと出るよう国に働きかけていくことがモデルケースになるのではと考えている。

デジタルの活用については、ある程度民間に任せていくことが重要かと考えており、民間との連携のなかで、チャレンジしていくことが重要だと思う。DXについては、「だざいふモデル」として実施できるかまだ見極められていないため、皆さんからお力添えいただければと思っている。

◆学校と連携した観光振興事業について、留学生との絡みはどういうことがあるのか。

<事務局説明>

⇒外国人観光客は日帰りで帰られるケースが多いため、体験型、滞在型の観光を伸ばしていけないかと考えている。体験型事業のサポートに留学生が入ることができないか、留学生、事業者と協議を進めている。

<市長説明>

⇒太宰府にとって大学、学生はメリットであるため、観光以外の事業についても仕掛けを考えており、学生の提案に予算を付けて実行していく取組も進めている。

◆人や予算などの資源の投入度合いが施策を成否を決めると考えている。それぞれの施策について人や予算の具合、事業数などを把握することで、施策と国の政策がどう繋がり、国の予算を持ってくることができるのか検証してほしい。

◆太宰府の課題解決先進都市として、戦略的にどこにフォーカスして資源を投入するか、太宰府ならではの戦いの略図を作してほしい。

<市長説明>

⇒観光客を多く受け入れるなど国の観光立国に沿って取組を進めており国に予算の要求を行ってきたが、まだ数字に表れていないところがある。旧来型のお金と時間をかけて補助金をもらうだけではなく、先進的に何かやることを心がけてきたがさらに進めていく必要があると認識した。

◆大学生と連携するなかで何か実績を残すことは非常に価値があり、大学生が考えたことを市が後押しした実績が必要である。まちづくりに携わるなかで、行政は最後の最後に法律上できないとなることが多い。法律の範囲内で最大限助けてくれるまちであると広がっていくことが重要と思うため、実績を作っていくことが必要である。

<市長説明>

⇒課題解決プロジェクトの中で非常に面白い提案が出ており、今後イベントや取組が進んでいく。広く宣伝を行うことで、学生に後押しの実感をしてもらうことを期待している。

◆新規事業の中に「日本一の猛暑のまちを生かした観光施策の展開」があるが、具体的

なイメージなどを伺いたい。

<市長説明>

⇒観光だけでなく災害気候変動への適応などの環境についてが本来の形ではないかと考えている。ただ、転んでもただで起きないという意味では観光もやりたいと考えている。

◆以前、九州国立博物館で長蛇の列が出来た際に熱中症で倒れる人が続出したため、急遽博物館前にミストが設置された。参道には軒があるので、夏限定で軒にミストを付けるなどでできればいいと思う。

◆猛暑について、市に普通交付税措置ができないかと意見を出していた。

<副市長説明>

⇒猛暑対策の財源措置について、要望を出している。

◆財源措置ではなく、温度を交付税措置の式の中に入れることができれば、「だざいふモデル」にできるのではないかと考えていた。また、なぜ日本一の暑さとなった要因を少し分析してみてはどうかと思う。

<市長説明>

⇒今では雪害が当たり前になっているが、以前は雪は交付税措置になっていなかった。暑さは成果的な課題であるため、そのような観点も持ちたい。

◆ひとり親支援におけるOutputに「周知回数(広報等掲載等)」とあるが、学生の立場では色々な制度を知ることが難しいと感じる。学校の先生から制度等の話をするのは難しいと思われるため、学校において行政における講演や相談会があればいいと感じた。

<市長説明>

⇒ひとり親給付金の利用者は10人であったが、制度を知らないという方がもっと多いと思う。行政からアプローチするための具体的な提案にまで落とし込む必要があると感じている。

◆戦略というのは、何をするかというよりも何をしないかを決めると習ってきた。行政なので何をしないとなると語弊があるが、極端な形で政策を行わないと目立たない、注目に値しないということがある。観光において、太宰府が地域間競争に勝ち残っていくための長期的な戦略について考えをお聞きしたい。

<事務局説明>

⇒平成30年度に第1期観光推進基本計画、令和5年度末に第2期基本計画を策定したなかで、オーバーツーリズムの課題解決を進めている。基本計画の目標値等を達成すべく、ビジョン会議などにおいて観光戦略を示しながら進めていきたいと考えている。

◆民間ではDXは企業存続のキーワードになっている。DXの見本市などに市で参加したりしているのか。

<事務局説明>

⇒可能な範囲で参加している。また、令和6年度の施政方針にもDXの推進を掲げており、

総務省のDX支援等などを活用しながらチャレンジ、試行錯誤している。

- ◆ 会議録の要約など生成AIを業務効率化に使えないか試行している。秘密保持の観点など民間でのDXの取組を行政で活用できるのかという点はあるが、いろいろと模索してみるのもいいかと思う。